

秋田美大付高 卒業制作

秋田市の秋田公立美術大付薬師高等学校の生徒が五城目町を取材してまとめた新聞が完成し、町内全戸に今月配布された。4こま漫画や広告欄にもこだわり、町内に約半年間をかけた力作。地域の魅力を再発見できる内容となっている。



地域住民を取材する秋田公立美術大付薬師高等学校の生徒たち（同学院提供）

五城目の魅力、新聞に

半年かけた力作、4こま全戸配布

4こま漫画、コラムも掲載

制作したのは2021年度にビジュアルデザインコースの3年生だった8人。ビジュアルデザインコースは18年度から、毎年度の3年生が、五城目町で活動する人を取材し、卒業制作としてポスターや名刺を作ってきた。21年度の3年生は、これに加え、新聞制作にも取り組んだ。生徒は2人1組で町内4地区を取材。7～10月に各グループが5区ほど現地を訪ね、地域で活躍する人にインタビューをしたり、名所を写真撮影したりして、記事の内容を考案した。11月から約1カ月間かけて紙面を制作。本報の前編のレイアウトを参考にしながら、各グ

ープ1ずつ計4分の新聞を仕上げた。記事だけでなく4こま漫画やコラムも掲載したほか、広告欄でも実際に地区にある店舗や施設を登場させるなど細部にこだわっている。デザインを学んだ経験を生かして、広告欄に使用しているイラストや題字も自分たちで描いた。黒色と黄色の2色刷りで、町広報の22年4月号と一納に町内の約300戸に配布された。経沢地区を取材した「彩葉新聞」と題したページでは、山菜料理が名物の観光レストラン「常成の森」や新着「ネコババ」を取り上げている。



完成した新聞。4こま漫画や広告欄にもこだわった

執筆した齊藤操さん（18）は秋田公立美術大1年。は「新聞と関係を築きました。新聞を作るのは貴重な経験になった。本報のレイアウトを参考に、4こま漫画や広告欄にもこだわったが、地域の魅力を再

見で、喜んでもらえるように努力した」と語った。ビジュアルデザインコースは本年度も3年生7人が五城目町を取材し、新聞制作に取り組む。（菊地雅秀）